

としょえもん

平成 30 年度
第 2 号



読書の秋を楽しむ 1 ～図書委員会活動から～



梶田小学校では10月15日～26日までの12日間にわたって「読書旬間」を実施しました。

始めに読書旬間集会を行い、図書委員会が「読書旬間」についての説明や、学年別におすすめの本を紹介しました。

子どもたちは「読書旬間」期間中に読んだ本の中からおすすめの本を1冊選び、「この本おすすめです」というカードを作ります。おすすめの本を選んだ理由や、おすすめの場面の絵、感想などを書き、各教室の廊下に掲示しました。

司書として子どもたちを見守る中で、休み時間にいつもよりも多くの子どもたちが学校図書館に来て、楽しそうに本を読んでいる姿が印象的でした。

この期間を通じて「本を読む楽しさ」「自分の好きな本を人に伝える面白さ」を体感し、学校生活をより豊かに過ごすことができていると思います。

読書の秋を楽しむ 2 ～中学校で～

中山中学校では秋の読書週間に合わせて一年生が本の紹介スピーチを行いました。国語の授業の中で、学校司書が本の紹介とPOPを作成するうえで重要なキャッチコピーや著作権について説明をします。生徒は、あらすじや本の魅力が伝わるようなスピーチ原稿を考え発表し、イラスト入りのPOPも作りました。廊下に展示する予定です。

二年生は生徒の発案による朝読書に取り組んでいます。あらかじめ、朝の時間に合った短編小説など、学校司書が学級文庫用に用意しました。その中から、図書委員が各クラス20冊を選び教室で管理します。担任の先生も一緒に本を読む朝の10分間は、日ごろ読書の時間が取れない中学生にとって本に親しむよい機会となりました。一時間目の授業へもスムーズに入ることができると先生方も実感しているそうです。



第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」(文部科学省)

平成30年4月に、第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」が閣議決定されました。この第四次基本計画では、生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を形成するために、乳幼児期から発達段階に応じた読書活動が行われることを重視しています。

これは、第三次基本的計画に掲げた目標の一つである「子供の不読率の減少」が、小中学生の不読率では改善の傾向がある一方、高校生の不読率は依然として高いことを踏まえた結果です。国の調査では、中学生までに読書習慣が形成されていないことと、高校生になって読書の関心度合いが低くなり、本から遠ざかってしまったことが原因と考えられています。

そこで、このことを踏まえ、第四次基本計画では、家庭において、読み聞かせをしたり、子供と一緒に本を読んだり、図書館に出向いたりするなど、工夫して子供が読書に親しむきっかけを作ることが重要であるとしています。また、生涯における読書活動の推進のため、図書館、学校図書館や関係機関が連携・協力し、子供が読書を身近に感じられる環境を整備していくことの重要性も示されています。

本市においても「第3次読書のまち八王子推進計画」の期間が平成31年度末までであることから、現在、第4次推進計画の策定の準備を進めています。

大人も楽しむ子どもの本



『バッタを倒しにアフリカへ』

前野ウルド浩太郎／光文社新書／2017年

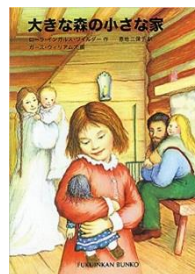
少年の頃に読んだ「ファーブル昆虫記」に感銘を受け、バッタの研究で博士号を取り、憧れの昆虫学者に。しかし、バッタの被害が少ない日本では仕事がない！そこで、大量発生地の、アフリカのモーリタニアへ単身で乗り込む作者。

言葉の通じない現地スタッフに時には騙されながら、サソリに噛まれても、お金が底をついてもバッタの群れを追いかけあきらめない。軽快な文章に引き込まれます。



『大きな森の小さな家』

ローラ・インガルス・ワイルダー 作
恩地三保子 訳／福音館書店
／2002年



ローラは大きな森にある小さな家に住んでいます。この森は深く、辺りには一軒もうちがありません。時にはオオカミに出会うこともあります。もうすぐクリスマスです。かあさんは一日中、ごちそうを作っています。ビスケット、ほしリンゴ・パイ…美味しそうなものが次々に出来上がりました。作者の名前を見て気がついた方もいらっしゃると思います。この物語は、彼女が64歳のときに自分の子ども時代を振り返って書きました。



平成30年度「調べる学習コンクール」審査結果は次号にて発表します。

発行：2018（平成30）年12月1日
問い合わせ先：八王子市学校図書館サポートセンター
〒193-0832 八王子市散田町2-37-1
電話 042-664-1135